

考え方を育てる学級経営

学級担任は、児童生徒一人一人の
実態を的確に把握し、これからの社
会において主体的に生きていくため
に必要な資質や能力を養うという観
点に立って、個に応じた指導を工夫
することが大切である。そのことに
より、児童生徒一人一人が、自分
ものの見方や考え方をもち、自ら学
ぶ意欲や主体的に学習する態度を身
につけることができる。

(2) 友情と信頼に満ちた学級づくり
学級担任は、学級の実態を多面的
に把握し、学級目標の具現化の過程
で望ましい集団の形成を図る必要が
ある。そのために、学級担任は温か
い愛情のもと児童生徒自らが育つて
いく過程を支援しながら、明るく高
め合う学級集団を築き上げていか
なければならない。

特に、児童生徒一人一人について
の個性や家庭環境などを十分把握
し、一人一人の願いや問題点、訴え
などの的確に対応できるようにし、
登校拒否問題やいじめ問題に対し
て早期発見、早期対応ができるよう
に努めることが重要である。

これらの問題の解決は、学級担任
一人では困難を伴うことの方が多い
ので、学年あるいは学校としても対
応策を講じ組織的に対応することが
大切である。

また、いじめ問題は生命尊重や人権
問題に関わることを十分認識して、
日常から道徳教育を中心とした「心
の教育」の充実を図る必要がある。

(3) 新しい学力観に立った学習指導
の充実

児童生徒一人一人が学校生活や学
級生活が楽しいと感じるのは、学習
内容がよく理解でき学習しているこ
との楽しさを味わえるときである。

学習の主体者としての児童生徒の
側に立ち、一人一人の持つよさや可
能性が発揮できるように支援し、そ
の後の学習や生活に生きて働く力を
身につけさせることが大切である。

そのために、指導技術の向上や指導
方法の工夫改善に努めるとともに、
個に応じた指導のあり方についても
工夫し、日々の授業改善に努めてい
く必要がある。

(4) 教室環境の整備

教室環境は、児童生徒の学習と生
活に様々な影響を与える。

これらが、学習や生活に適した環
境となるように、学級担任は児童生
徒とともに創意工夫して整備してい
く必要がある。

(5) 家庭との連携を深める学級経営

一人一人の望ましい人間形成のた
めには、それぞれの家庭環境を理解
し、指導に当たることがある。その
ためには、常日頃から家庭との連絡

を密にし、相互の信頼と協力関係を
確立し、共通基盤に立って教育活動
を進めていくことが大切である。

八 進路指導の充実

1 進路指導のねらい

学校教育においては、生徒が自分
の生き方を考え、将来に対する目的
意識を持つて主体的に自己の進路を
選択・決定し、生涯にわたって自己
実現を図っていくことができる能力
や態度を育成することが求められて
いる。

そこで、進路指導においては、生
徒一人一人が自己の個性や生き方、
進路の多様な選択可能性についての
理解を深め、将来の学校や職業に関
する情報を収集・活用しながら、進
路に関する相談の機会を通して、将
来の夢や希望を抱いて、自らの進路
を主体的に選択決定できるように指
導・援助することが大切である。各
学校においては、進路指導の基本的
な性格を次のようにおさえ、自校の
実態に応じた手だてを講じる必要が
ある。

(1) 学級活動を中核としつつ教育活
動全体を通じて、計画的、組織的、
継続的に行われる教育活動である

こと。

(2) 家庭や地域社会、関係機関との
協力・連携が特に必要とされる教
育活動であること。

(3) 生徒自らの生き方についての指
導・助言であること。

(4) 一人一人の生徒を大切にし、そ
の個性や可能性を最大限に生か
し、伸長する教育活動であること。

(5) 体験的な活動を通して自らの個
性を発見し、目的意識を持つて、
主体的に自己実現を図っていく態
度を育てる教育活動であること。

いうまでもなく、生徒の将来の夢
や願いの実現のためには、基礎とな
る確かな学力を身に付け、多様な進
路選択の可能性を高めることが大切
である。各学校では、各教科等の授
業において、なお一層、基礎・基本
の定着を図る必要がある。

2 本来の進路指導の推進

各学校では、業者テストに関与し
なくなつて以来、本来の進路指導の
あり方を探り、生徒が主体的に進路
選択できるよう、情報の収集や体験
活動の実施などさまざまな工夫がな
されてきた。

今後は、「生き方の指導への転換」、
「進学したい学校選択への指導の転
換」、「生徒の意欲や努力を重視する
指導への転換」、「生徒の選択決定へ